目標の進捗状況報告書
（2012年度・大学）

担当部局は　　☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 （研究科）
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	~~専門教育・教養教育の位置づけ（学部）~~ コースワークとリサーチワークのバランス（院）
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	~~学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部）~~ ~~初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部）~~
	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院）
	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）

Ⅱ．目標の進捗評価と進捗状況報告（2012.4.30現在の進捗状況報告）

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。
進捗評価はA､B､C､Dの４段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。
A､B､C､D評価は目安として次のようなものである。

A　：　目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B　：　目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C　：　目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D　：　目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価 2009	2010	2011	2012	2013
１．前期課程については、専門性を特化させた研究を行い、質の高い修士論文の作成を指導する。	→修士論文の完成度、提出状況、学生の進路、修士論文の査読評価。	A	B	B		
２．後期課程については、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるように指導する。	→領域ごとの博士学位論文授与数、博士論文計画書、予備論文、博士論文提出までの経過年月、審査結果、授与者の進路調査結果。	B	B	B		
３．学位論文作成能力を養成するために研究の進捗状況に応じて段階的な指導体制を整備する。	→「研究演習」における学位論文計画および「博士論文作成演習」における予備論文の学術的達成度の評価。	B	B	B		
４．専門分野の高度化および隣接分野との学際化に対応したカリキュラムを継続的に運営する。	→大学院生の多様なニーズに対応しているかどうかについての毎年の調査結果。	B	B	B		
５．教育成果としての大学院生による学会発表、学会誌への論文投稿、研修への参加などを活発化する。	→日本学術振興会特別研究員への申請数、学内奨励金制度への申請数、その他の研究奨励金などへの申請数と採択状況。	B	B	A ☆		

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

	目標1	前期課程においては、必修科目の研究演習と選択科目の特殊講義・資料研究・特殊研究などをバランスよく配置して質の高い修士論文を完成させるための指導体制をとっている。2011年度は文化歴史学専攻19名、総合心理科学専攻17名、文学言語学専攻15名が修士学位を授与された。
	目標2	2011年度に学位申請論文を提出して博士学位を授与されたのは文化歴史学専攻11名、総合心理科学専攻3名、文学言語学専攻4名の総計18名であり、このうち後期課程入学から6年目で学位を授与された者が最も多く8名であった。
	目標3	博士学位論文の提出が求められる後期課程では、その目標を達成するために、「博士論文計画書」の提出とその承認を経てそれまでの「研究演習」から「博士論文作成演習」の履修へと進み、さらに「博士予備論文」の提出とその審査合格によって「博士論文」の完成につなげるという段階的な指導体制を組んでいる。
☆	目標4	前期課程には隣接分野との学際化に対応した科目として全領域の大学院生が履修できる「文学研究科特殊講義」がある。2011年度の履修者数は3名で前年度の14名から減少したが、講義内容や告知方法に工夫を加えれば、より充実した体制が組めると思われる。また総合心理科学専攻では、2011年度に臨床発達心理士の資格取得のため「心理科学特殊講義」のクラス増を行い、院生のニーズに対応する動きをとった。
	目標5	文学研究科院生の2011年度における日本学術振興会特別研究員への申請者数は16名でうち6名が採択された。また学内奨励金制度についてみると、大学院博士課程後期課程研究奨励金の採択者数が3名、大学院奨励研究員が2名、大学院海外研究助成金の採択者数が3名となっている。さらに文学研究科独自の研究支援制度を利用して学会発表を行った院生数も2011年度は前期・後期課程合わせて24名と活発な様相を呈している。
	備考	